

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

では、7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

皆様、こんにちは。7番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、「あしがり郷瀬戸屋敷を北部地域活性化の拠点にするには」を質問いたします。

町の重要文化財に指定されているあしがり郷瀬戸屋敷は、平成29年4月から指定管理者制度を導入いたしました。既に民間活力を生かした観光振興や体験学習の場として、様々な取り組みが展開されております。さらに、町民の皆さんや観光客が日本のふるさと感じる原風景の中において、瀬戸屋敷クラブの皆さんが実施されている年中行事があります。例えば、1月ならお正月飾り、餅つき、道祖神太鼓などを四季折々に展開しながら、「田舎モダン」にふさわしい取り組みをされてきております。

この拠点施設のさらなる利用促進を図るために、今後、瀬戸屋敷周辺をどのように整備され北部地域活性化につなげていくのか、次の質問をいたします。1、北部地域活性化と瀬戸屋敷周辺整備のコンセプトをどのように考えるのか。2、北部地域活性化推進協議会からは、拠点施設整備について、どのような意見が出されているのか。3、この拠点施設への地元住民の参画と活動をどのような形にすることを考えているのか。4、ふるさとの生活道具館と拡張する駐車場用地の確保への見通しはどのようか。5、瀬戸屋敷に隣接する前面道路、県道720号の安全対策は万全か。6、施設整備についての住民への説明会などはどのようにお考えか。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員の御質問にお答えをいたします。

最初に、北部地域活性化と瀬戸屋敷周辺整備のコンセプトをどのように考えているかについて、お答えをいたします。

北部地域活性化事業は、車の両輪のように二つの大きな目標を掲げております。一つ目の目標は、農業振興と農地保全の面で、農産物の高付加価値化と地産地消の推進や担い手の体制づくりなどにより営農環境の保全と活用を進めることでもあります。二つ目の目標は、交流促進の面で、新たな交流拠点づくりにより拠点エリアを形成し、北部地域全体の交流展開を図ることでもあります。これらにより定住人口の維持と交流人口の拡大を図り、地域活力を向上することとしております。

具体的には、農業者の組織化や後継者、新規就農者を育成し、弥一芋や酒米、飯米のブランド化、高付加価値化を通じて農業生産の収益力を強化いたします。また、農地のレンゲや菜の花栽培による修景や地力回復を図るとともに、地域農産物の販

売施設や加工施設、交流カフェの整備等による地域農産物の販売額の増加等により兼業農家が農業を続けやすい環境づくりを進め、多面的な機能を有する農業の持続可能な発展を目指します。

本町の観光交流拠点であるあしがり郷瀬戸屋敷を核とした民間事業者との連携による新たな交流拠点づくりを行い、地域の歴史や文化を活かした学び・体験プログラムの強化や、地元産酒米を活用した酒蔵の再生支援を行います。それらにより地域のにぎわい、活力を生み出すとともに、北部地域らしさを活かした暮らしの魅力を高め、定住人口の維持と交流人口を拡大いたします。

二つ目の御質問の北部地域活性化推進協議会からは、拠点施設整備について、どのような意見が出されているかについて、お答えをいたします。

開成町北部地域活性化推進協議会を今年度は2回予定しており、これまでに1回、同部会を4回開催しております。拠点施設整備については、本年4月にあしがり郷瀬戸屋敷に指定管理者制度を導入し、10月から瀬戸屋敷案内所の改修によりカフェ「h a c c o」をオープンしており、現在、観光バス乗り入れ等のための駐車場の拡大、ふるさとの生活道具館の建て替えや屋敷施設との連携案についての検討をいただいております。

代表的な意見としては拠点施設についての意見が多く、地域農業者のために農産物を直売する場所を継続してほしいことや、加工室を設けて農産物の非正規品を利用し加工製品をそろえたいといった御意見であります。また、地域住民や農家の方と試行錯誤を繰り返して製品をつくっていく場所として、自由に使える厨房があると良いといった御意見もいただいております。このような様々な御意見を参考に、今後、具体的な施設案をまとめる予定であります。

三つ目の御質問のこの拠点施設への地元住民の参画と活動をどのような形にすることを考えているかについて、お答えをいたします。

現在、東京農業大学、神奈川県、あしがり郷瀬戸屋敷と町の連携事業として、「発酵のチカラを、開成町の魅力に」をテーマに、瀬戸屋敷「はっこう大作戦」と銘打ち、地域住民の方約55名の参加のもと、全5回の講座を展開しております。この講座では、瀬戸屋敷ひなまつりで実際に販売を計画する物品の開発も行っております。先に述べましたように、新たな施設が完成した際には、地域住民や農家の方が主体となり、魅力ある新たな地場産品を創造する工房としても活用していきたいと考えております。

また、あしがり郷瀬戸屋敷の指定管理者が現在、「WE LOVE JIMOTO」と題して地域の方に呼びかけをして、あしがり郷瀬戸屋敷の持てるポテンシャルを十分活用できるよう支援者を募っております。支援者からは、足柄茶の茶摘み体験や柿もぎ体験ツアー、染物体験など様々な企画提案も受けており、このような事業も地域住民の皆様とともに実施を検討したいと思っております。

四つ目の御質問のふるさとの生活道具館と拡張する駐車場用地の確保の見通しについて、お答えをいたします。

ふるさとの生活道具館は、既に登記上、宅地となっており、開成町の所有であります。駐車場は、既存の駐車場敷地を除くと農地所有の地権者が2名程おられます。両地権者に対しては定期的に状況報告を行っており、事業協力いただける状況であることから、現在は農業振興地域の整備に関する法律や農地法、都市計画法上の調整を県と行っているところであります。

五つ目の御質問の瀬戸屋敷に隣接する前面道路、県道720号の安全対策は万全かについて、お答えをいたします。

県道720号（怒田開成小田原）は、町内を南北に通る路線で、町内の延長は約4.7キロメートルあります。この県道には、あしがり郷瀬戸屋敷の前をはじめ大部分に歩道が設置され、街路灯なども整備されており、おおむね安全は確保されていると認識をしておりますが、南足柄市境からあしがり郷瀬戸屋敷を経て新延沢交差点までの区間の一部について、歩道の未設置区間があります。歩道の未設置区間は、金井島地内に約250メートル、延沢地内に約480メートルの2区間であります。

地元自治会からは、歩行者や通行車両が混在し、また道路幅員が狭いところや見通しが悪い箇所もあり、危険な状況のため歩道整備の要望を受けており、町として地元自治会の要望を踏まえ神奈川県に歩道整備の要望を行ってきました。あじさいまつりやあしがり郷瀬戸屋敷への来訪者等で現在でも多くの人々が往来する道路であり、町では今後の北部振興の進展により、さらに交通量が増すと予測されていることから、歩道設置の必要性は一層高まると考えております。

神奈川県は、地元の合意形成が図られれば歩道整備の事業化を検討するという事になっております。町としては、地元関係者からの個別の意見聴取や意見交換会を開催し、早期に歩道が設置されるよう努めており、地元関係者の合意形成が図られた区間から神奈川県が速やかに事業着手できるように取り組んでおります。

最後の御質問の施設整備についての住民への説明会等はどのように考えているかについて、お答えをいたします。

平成28年2月に2回、岡野老人憩いの家及び金井島公民館において開成町あしがり郷拠点整備基本計画に関する説明会を実施して以降、現在まで関係機関との調整を行い、部会、協議会において、さらに検討を重ねてきました。前回の説明会から変更となった仮称「郷のいえ」の機能移転を含め、現在の状況について、来年の1月、2月頃を目途に地元説明会を開催したいと考えております。地元の皆様の御理解、御協力が不可欠の事業であることから、平成28年と変更となっている点、新たな拠点施設の概要や機能について、丁寧に説明を行っていきたいと考えております。

以上であります。よろしく願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

詳細にわたりまして答弁をいただきました。北部地域の活性化のためには、農業振興と交流の促進を車の両輪として目標を掲げられております。瀬戸屋敷周辺の整備に重きを置かれ、地元の農家のことや農業継続の仕組みづくりなどが手薄のように感じますので、充実した北部地域活性化策に期待をしまして再質問をさせていただきます。

町長は2期目の公約に北部地域の活性化を図ると言われておりますが、北部地域活性化協議会の開催状況は、今年度はまだ1回のみ開催に留まっております。地域全体としての町の取り組みへの理解や協力が得られ、今後の取り組みがスムーズに進められるか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

下山議員の御質問にお答えをさせていただきます。

議員の御指摘のとおり、協議会は本年度1回開催しておりますけれども、1回開催するまでに部会は4回程開催をさせていただいております。本年度は、交流拠点施設につきましては基本設計を、これは委託をしながら実施をさせていただいておりますので、部会の方々にいろいろ御意見を頂戴しながら、そういったものをまとめつつ協議会を一度開催し、そこでまた御意見をいただいておりますので、現在、そういった検討課題を調整していると、そういった状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

協議会と部会が4回程開催されたということですが、あと1回の協議会の開催は、いつ頃になりますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

ちょうど、ここで基本設計の最終段階に入っておりますので、前回協議会でいただきました御意見等を微調整いたしながら、最終的には交流拠点関係の基本設計をまとめ、概要版をまず作成をしたいと、そういったところで、1月には協議会を開催してまいりたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

1月に2回目を開催されるということで、基本設計をまとめて概要をつくるということでございますが、私は、北部地域活性化の根幹は、町が土地利用計画図ゾーンで北部地域をふるさとゾーンとされ、農地の保全、営農の継続にあると計画され

ました。時代の変化に対して、農家にいかに真剣に向き合い課題を解決しながら御理解を得られるかで、私は初めて北部地域の活性化策に取り組むことができると確信しております。

町長は平成27年度、北部地域の今後の取り組みの説明の中で、岡野、金井島地域におかれまして、「皆さんに呼んでいただければ何度でも来ますよ」と答えておられました。呼ばれなければ御自分で出かけてみるのも町長の誠意をお示しする良い機会と思いますが、いかがですか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

そのとおりだと思います。

問題なのは、北部地域の農業の皆さんの活性化もあるのですが、今、瀬戸屋敷周辺整備の話の中で、やはり農振地域の中のいろいろな規制の中で、それをどうやって対応しながら計画をつくっていくかという。いろいろな地権者の農業の皆さんから御意見をいただいて、つくってはおるのですが、それがなかなか規制の中でうまくいかない部分があつて。2年前の説明会の際の計画が、きちんと説明したにもかかわらず、それが実現できない部分で変更するという、それが大きな問題と認識しております。

今年の1月、2月に、できるだけ早く確定したものを説明会の中でしていきたいと考えておりますので、そのときに、農振の中できちんとそれが、また建築上、いろいろな様々な規制の中で、まず、皆さんの御意見、御要望を盛り込んだものが実現、確定できるようにしてから説明会に臨みたいと思いますので。そういった部分において、まだまだ県との調整が残っておりますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思ひます。

また、それとあわせて農業振興の農地保全、その辺については後継者問題も含めて様々な課題がありますし、最近、町の広報でもそうですけれども、若手農家の皆さんが今、出てきていただいておりますので、そういう人たちも含めてまた意見交換もさせていただきながら、北部農業の活性化について議論をしていきたいと思ひます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、そうしていただければありがたいです。

北部地域の皆様に聞き取りをしますと、「町長がなかなか来てくれない」、「町長が来てくれるとうれしいんだけどね」というようなお話をたくさんの方から伺っておりますので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

先程、課長からの御答弁で、基本設計が、あと一回で概要がまとまるということでございましたが、瀬戸屋敷の開館から10年が経過しているわけでございますが、

その間に利用団体や利用者からのアンケートや御意見をたくさんいただいていると思いますけれども、今回の基本設計にそのような御意見、内外からのお客様の御意見や町内の方たちの御意見などは取り入れることができましたでしょうか、お聞きいたします。参考になるようなアンケートがございましたでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

まず、アンケートといったものは、いろいろイベント関係でもやってございますけれども、様々な御意見をいただいているところでございます。それで、そういった御意見もそうですけれども、今回の開成町北部地域活性化推進協議会、こちらの構成団体といたしましても、瀬戸屋敷の関係で一番密にやっていただいております瀬戸屋敷クラブ、こちらの団体の長の方にも入っていただいたりとか、もちろん瀬戸屋敷の館長、そういったところも入ってございます。瀬戸屋敷に関係するような団体の代表の方は、この協議会に全て入っている認識でございますので、協議会を通じて様々な御意見をいただきながら、できるものとできないものがやはり出てまいりますけれども、積み上げてきたというふうに御理解いただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま活性化協議会の構成メンバーのお話をなさいまして、瀬戸屋敷クラブの会長とか瀬戸屋敷の館長たちがメンバーでいらっしゃるということでございますが、そのほかにはどんな方が構成メンバーになっておられるか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

委員構成といたしましては全員で14名となっております、順番に申しあげますと、開成町農業委員会、開成町商工振興会、開成町農産物直販組合、開成町飲食店組合、開成町婦人会、神奈川西湘農業協同組合の開成支店長、同開成営農経済センター長、瀬戸屋敷クラブ、瀬戸屋敷、NPO法人郷の市、古民家ガーデン紋蔵、あと町民代表2名と、あとは瀬戸屋敷の指定管理者で入っていただいておりますオリエンタルコンサルタンツ、そういったメンバーで構成してございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

14人ということでございますが、活性化協議会委員の任期は来年の2月までと聞いておりますが、あと3カ月しかない中で、この2年間で活性化のための具体的な方策が十分に議論され、それが計画づくりに活かされたと認識されておりますで

しょうか、お伺いたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

2年間、やらせていただいたわけですが、活性化推進協議会の前々身の時にもいろいろ協議会、検討会、様々な組織で北部の関係は議論されてきたと、そういった経過がございますので、それを2年間で全部できたかといいますと、その辺は、逆に基本的な部分をここで構成ができつつあると、これから展開への場面になってこようかと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

では、基本的から展開に移ったということですが、その中の各委員は、参画いただいたことをきっかけにして、今後の具体の取り組みなどへのリーダー的な存在として期待しておりますが、そういう点ではいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

各委員におかれましては、もともとそれぞれの組織の長であったりとか代表であったりとか、そういった方々でございますので、そういった方々は、引き続き北部の活性化、そちらには御協力をいただきながらやっていかなければ、お願いをしながらやっていかないとなかなか難しいのではないかなと思いますので、その辺につきましては今後も引き続きお願いをしたいなど、担当課長としては、そのように考えております。

また、町長答弁でもございましたけれども、今年、瀬戸屋敷の指定管理者として入っていただいております、オリエンタルコンサルタンツのほうでは、「WE LOVE JIMOTO」ということで、地元の活性化といったところで取り組みを新たに始めていただいておりますので、そういったところの展開も応援をしながらやってまいりたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私は、開成町町民は老若男女を問わず、町の三大イベントへのかかわりや小さな事業に対しても大変積極的に御協力をいただいております、大変感謝するところでございます。北部地域活性化においては全町民が期待するところでございますが、特に北部地域の皆様にとっては、南部地域の後は北部地域だという思いの中で長い間、

待っておられましたし、町に対しても大いに期待を寄せられていることですのでございます。参画された方だけでなく、町が誠意を持って対応されれば、協力体制はおのずとじていただけると感じております。

次に、ふるさとの生活道具館の建てかえを検討されているようでございますが、江戸初期から続く瀬戸家でございます。生活道具や時代を背景に生活文化を映して今日に至るので、その過程を最大限、見える化し、「田舎モダン」で運営されるには、町立の歴史資料館と位置づけて、小規模でもよろしいですので、そんな場づくりの構想をしてみたいかがでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

議員御提案の歴史資料館ということでございますけれども、現在のところ、協議会の中では交流拠点施設ということで考えているところでございます。

ただ、1点、現在ございますふるさと道具館の中には、議員がおっしゃるとおり、重要文化財の瀬戸家の物品、そういったものが数多くまだ残っておりますので、そちらは一度、整理をしなければいけないということは考えてございます。先日、行われました協議会の中でも、そういった道具がいろいろあるのだという御指摘も委員からいただいておりますので、その辺につきましては、教育委員会管轄の文化財保護委員がいらっしゃいますので、先日、会長にもお声かけをさせていただきながら、その辺の重要性、そういったところは共通認識で持っておりますので、交流拠点施設をつくるための前段として、そちらの整理が必要だという認識は持っているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま拠点施設整備に入っているということなのでございますが、今回の事業に対しまして地方創生推進交付金が充てられるようでございますが、おおよそどのぐらいの金額が充てられるか、国から来るようでございますが、分かればお知らせください。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

北部地域の活性化推進計画の対象事業におきましては、議員が御指摘の地方創生推進交付金、こちらの採択を受けてございますので、そちらを今年度も既に活用しているところでございます。ちなみに、今年度の交付決定は1,699万3,000円でございます。そして、主だったところでは指定管理者への指定管理料、そこが一番大きなウエートを占めている部分になろうかと思っております。地方創生推進交付

金は事業費の2分の1を充てるという形になってございますので、そちらを本年度も活用させていただいております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

理解いたしました。指定管理料に充当しておられるとは存じ上げませんでしたので、私も先程、ふるさと道具館が町にとって、歴史資料館がございませんので、良いきっかけと捉えて、格上げをされても良いのかなと思ったものですから提案させていただきました。

では、次に、瀬戸屋敷の持つポテンシャルを生かすための質問をいたします。町の重要文化財であり、江戸期から現在まで続いた瀬戸屋敷の生活の場や小田原藩の重鎮であったことなどから、いわゆる語り部が常駐し訪れた方々を江戸の幽玄世界に引き込む演出をされたり、また来てみたいと思っただけのような空間づくりも必要と考えますが、その点はどのようにお考えでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

瀬戸屋敷は、議員がおっしゃるとおり、町の重要文化財であり、古民家の最たるところというところがございます。そういった由緒ある部分を交流拠点として現在もやらせていただいているわけですので、その辺につきましては、よりPRを加えて今後も実施をしていきたいと。一番直近では開成町瀬戸屋敷ひなまつりがございますので、そういったところで、ひなまつりですので、ひな人形とか、古いひな人形もございますので、そういったところもPRの一つといったところで、年間を通じてその辺はやっていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま提案させていただきました語り部は、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

語り部という御提案ですけれども、今現在は指定管理者制度の指定管理をお願いをしているところがございますけれども、こちらも今年、イベントをいろいろ増やしながらといったところでは工夫をされておりますので、そういった打ち合わせの機会とか、そういったところではお話をしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

開成町の重要文化財第1号でございますので、ぜひ、瀬戸屋敷にまつわる文化とか、そういうものを語り部で皆さんにPRしていただけたらありがたいなと思っております。

次に、直売所や加工室などの意見も出されているようでございますが、もう少し具体的な内容をお示してください。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

協議会でいろいろ検討している現段階での内容でございますけれども、今現在、郷の市のある旧選果場、そちらの建て直しをしながら加工室、直売所、それと休憩所、あと情報発信のための案内コーナー、そういったところを現在、検討段階と。それも、今、県の松田土木事務所であったりとか、県の農地課であったりとか、いろいろ調整をしながらやらせていただいていると、そういう状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

大変夢のあるような企画で楽しみにしておりますが、新しい拠点施設での雇用などはどのようにお考えでしょうか。例えばですけれども、金井島の生産者の方とか、今まで郷の市の方たちが10年近くも拠点の場所を守られてきているわけでございますので、やはり私は、今後もそういった地元の生産者とか地元の雇用がとても大事ではないかなと、北部の活性化のためにはぜひそういうことが必要ではないかなと考えてございますが、その点はどのようにお考えでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

まず、北部地域の活性化の第一段階として今年から瀬戸屋敷の指定管理を導入させていただいておりますので、そちらで、まず雇用の関係は正規が3名、アルバイトが5名。ここへ来て10月にカフェ「h a c c o」ということで飲食のできる場所を開設しておりますので、そちらで非常勤が3名という形で、現在でも以前に比べると倍近い人が雇用されていると。これからの交流拠点施設においても、当然、直売所であったりとか加工室、そういったところをつくっていききたいというところでございますので、そういったところでの雇用創出、そういったところも見込めるのではないかなと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、そういった雇用をよろしくお願ひしたいと思います。

次に、拠点施設整備には様々な御意見を参考にして、今後、具体的な施策案をまとめると予定されているようでございますが、「田舎モダン」を推奨しておるようでございますが、新しい拠点は古民家を連帯したイメージを持たれるのか、あるいは「田舎モダン」のモダンを打ち出していかれるのか、どのようにお考えでございましょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

まず、瀬戸屋敷自体は圧倒的な古民家でございますので、そちらの存在がすごく大きいという評価をいただいております。今回、案内所を飲食のできるカフェ「h a c c o」といったところで改修をさせていただいた、その部分については「田舎モダン」のモダンの部分を採用していると。そういった系列の中で、今回の交流拠点施設も「田舎モダン」のモダンのほうを、その辺は前面に押し出していこうと。ただ、違和感があってはいけませんので、その辺は落ちついた色合いだったりとか、そういったところは十分配慮しながらやってまいりたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私も、色調とか、そういうものはとても、外観から見るところでございますので、大事だなと考えてございます。そこで、20年、30年経ったときでも町民に喜ばれる建物であり、北部の原風景にマッチした色調で、かつモダンの部分も取り入れると、今、お話を伺ったわけでございますが、「田舎モダン」、そのモダンをどんなふうに出されるか、ちょっとお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

言葉で申しあげるのはなかなか難しいのですが、モダンですので現代風という部分は取り入れてまいりたいと思っておりますけれども、交流拠点施設のイメージとしては、今の設計を委託している設計会社のコンセプトとしては、水をイメージした曲線、そういったところを取り入れながら設計を組んでいただいていると。開成町は「水」というキーワードが前から言われておりますので、そちらをイメージしたとおっしゃっておりました。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

私も、今回、町内外からこの質問をするのに聞き取りを行いましたら、近隣や町

の声で一番多かったのが、瀬戸屋敷で子どもたちに安全な場所で水遊びをさせてほしいことと、お米や野菜、果物がどのようにできて食することができるかと、そういった体験学習をさせてほしいと、どのお父さんやお母さんも言われておりました。また、瀬戸屋敷は、竹林や水路と水面、水遊び、水車で米つき、洗い場、芋洗いなど、いつでも体感できる宝庫でありますので、ぜひ、そういった意味でも、子どもたちや大人の元気な声が響き渡るような施策を展開されていかれることを希望いたします。

次に、問3でございますが、産・官・学連携で「はっこう大作戦」と銘打って講座を展開されておりますが、2012年6月30日のタウンニュースに「開成町1,300人が未来を体感」の見出しで、あじさいまつり会場におけるEVバス試乗会があり、9日間で約21万5,000人が訪れ、1,300人以上の観光客が未来のバスの乗り心地を体感したと、未来志向の取り組みをされたと大きく取り上げられておりました。まさに7年前に産・官・学連携の成功事例が我が町にはございますので、今回も私は大いに期待するところでございますが、差し支えなければ現在、どのような物品の開発がなされているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

今現在、発酵体験教室の関係で、具体的に町長答弁でもございましたけれども、2月、3月のひなまつりのときに、今、検討している発酵でいろいろ研究している塩麴であったりとか、発酵の関係の物品で何か製品化できないかなとか、いろいろ、6班ぐらいに分かれて、それぞれ、今、まさに研究している最中でありまして。全部が全部、そのときに売れるものまで、できるかというところまではあれですけども、一つでも二つでも会場で売れるものができるというところで取り組んでいるところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

塩麴は、いつとき、すごく体に良いということで、私も塩麴はいろいろ使って料理をした経験がございます。ぜひ期待しておりますので、頑張ってくださいと存じます。

次に、4月から瀬戸屋敷において指定管理者制度を導入し、はや8カ月が経過しておりますが、これまでの取り組み状況を御覧になりまして導入効果をどのように捉えているのか、また、委託する立場といたしまして今後の取り組みにおいて何を期待して要求していくのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

今回の指定管理導入に伴いまして、まず一番大きなポイントといたしましては、入場者数、半年間カウントしてまいりましたけれども、こちらが一昨年の上半期が1万6,802人という状況でございました。今年が2万1,377人と、130%の状況でございます。4月、指定管理導入とともに「せとわらしまつり」であったりとか、イベントも昨年に比べて数多く開催をいただいている点、それと、あと母親クラブが結構お子さん連れで瀬戸屋敷を活用していただいたりとか、そういったこともございまして非常に伸びていると。

ここで10月7日にカフェ「h a c c o」ということで喫茶店もオープンをして、普段、あまり瀬戸屋敷にはお見えにならなかった方も、お友達同士でちょっと行ってみようということで、結構、来ていただいているなど。私も瀬戸屋敷に用件で行きますと、大体2、3組はそちらの喫茶店にいるのかなという感じを受けてございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

成果が如実に出ているということがよく分かりました。私も11月に瀬戸屋敷にお邪魔する機会がありまして、正面玄関から一步、門に足を踏み入れて、はっと感じたことは、「田舎モダン」の雰囲気演出されておりました。お庭の休憩場所の3カ所に落ちついた色のパラソルが設置されており、おもてなしの心を受け取りました。少しずつ変化を感じております。大変喜ばしいことだと思っております。ぜひ、オリエンタルコンサルタンツにも期待したいところでございます。

次に、第4問に移らせていただきますが、四つ目のふるさと生活道具館については、先程、問2でお聞きいたしましたので、駐車場用地の確保でございますが、現在は車椅子が2台で普通車が20台でございますが、拡大への答弁でした。どのような計画か、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

現在の駐車場は、議員が御案内のとおり、一般車20台、身障者用、車椅子用が2台というところでございますけれども、現在、協議会で検討している内容といたしましては、車椅子用が3台、一般車が60台、大型バス用が4台、巡回バスを、今、町で走っておりますので、そちらのバスも止められると、一時停車できるというようなところを踏まえて計画を進めているところでございます。

こちらにつきましては、関係機関との協議の中で微妙に変わってくる可能性もございまして、現段階といったところで御理解いただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

大変広く感じるところでございますが、広さとかの具体的な数字は現段階でどのくらいでしょうか。あと、地権者が2名、協力はいただけるようでございますが、今後、農地法の問題は心配ないようでございますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

北部地域活性化担当課長。

○北部地域活性化担当課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

現在の計画では、現在の駐車場のほかに2,600平方メートル程広げたいという希望を持っております。地域の方々もいろいろ、農業振興地域の整備に関する法律につきましては、大変厳しいという認識をお持ちですけれども、町もその辺は同様な状態でございます。その辺につきましては、農地法、そちらの法律に準じて駐車場の拡幅、そういったのをやっていきたいというところで、現在もその辺は関係機関と調整をしている真っ最中だというところでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

次に、問5の質問をさせていただきます。瀬戸屋敷につながる県道720号線の安全対策についてでございますが、現在の交通量は1日何台ぐらいか、お分かりになったら教えていただきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えをさせていただきます。

町では、特に交通量ということではかっているところはございませんけれども、神奈川県で平成22年に交通量調査、瀬戸屋敷付近のことを調査されている結果がございます。この中では、1日あたり約1,900台程通過するという状況で結果を見ているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

1日1,900台ということで、おおよそ2,000台ということでございますが、あまりあってはならないことなのでございますが、この1年間で人身事故とか物損事故などはございましたか。そういうデータは、お持ちでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えをいたします。

今現在、県道720号に係る物損事故等につきましては、詳しくは把握はしていないところでございます。地元の方からは、そういったような事故があるよということではお聞きしておりますけれども、具体的な数字ということでは今現在、把握はしていないところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

北部地域活性化のためには、まず道路の安全策が最も重要かなと私は考えます。瀬戸屋敷周辺の歩道の未設置区間は、金井島で250メートル、延沢地内に約480メートルの2区間があると御答弁いただきましたが、地元の合意形成が図られれば県は歩道整備の事業化を検討するとされる御答弁をいただきましたが、現在、どの程度検討が進んでいるか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えをいたします。

県道720号というところでは、今、開成町内では2区間、歩道の未設置区間があるというところでございます。こちらにつきましては、両区間とも、地元からの要望を踏まえた中で神奈川県に要望を行っているという状況でございます。神奈川県としましては、地元の合意形成が図られれば事業化に向けて考えていくというスタンスでございますので、町としては、まずは地元の合意形成というところで、個別の意見をお伺いすること、また、関係者について、お集まりいただいて意見交換というところを開催しているところでございます。

この中で、先月でございますが、各区間ごとに意見交換会というものを開催いたしました。

まず、延沢の区間につきましての状況でございますが、全体に出席を呼びかけたところ、出席者としましては約4分の1の方の御出席をいただきました。この中では、歩道設置を進めてほしいという御意見がある一方、用地負担の関係、また県道に沿って流れる水路の関係の有効活用という部分では、もし仮に水路を暗渠化した場合については生活環境が変わってくるという様々な御意見をいただいているところでございます。そういったところと言いますと、まだまだ全体の合意形成をまとめていくというところにつきましては、お時間が掛かるのかなと。町としても県道の歩道設置については積極的に進めたいというところでは、地元の関係者とはあたっていただいているところでございますけれども、延沢区間については、このような状況であるというところでございます。

もう一つ、金井島区間につきましては、意見交換会ということでは対象者がちょ

っと少ない関係もございましたけれども、全員の方が御出席をいただきましていろいろな御意見を承りました。中には、水路についてはふたをしてほしくない、要は景観を大事にしてほしいという御意見だったり、敷地内のある一部については、この部分は大切なので用地買収の提供については協力できないという部分もございましたが、全体としては、皆様、やはり歩道設置については前向きな御意見という形で承っております。

そういったところを考えますと、今現在、改めて神奈川県とは情報共有、また進め方については調整をしつつ、両区間とも合意形成を進めたいと。その後、全体として合意形成が図られた区間から、速やかに事業着手ということについてお願いしていきたいというところがございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

金井島の250メートルは地権者の合意が得られる可能性が高いということでございますが、延沢地域は人数が多いということで、合意形成が金井島に比べたらちょっと難しいようなお話でございましたが、一度に2カ所を県が歩道の整備をされるのは大変なことだと思いますので、この金井島250メートルというのは大体想像がつくのですが、瀬戸酒造の急カーブのところでございますでしょうか。もし、そうであれば、来年、酒蔵がオープンされますので、そちらを優先して実施されたほうが良いのかなと考えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（高橋清一）

お答えいたします。

まず、1点目に、金井島区間の歩道未設置区間ということでは、瀬戸酒造がある付近というところがございます。また、金井島区間を優先したらどうかというところでも御指摘がございましたけれども、町としましては両区間とも歩道設置については動いていかなければならない。現状としては、金井島区間については北部の活性化ということもございますけれども、両方の区間について合意形成を図っていくという中で、全体の中で、各区間の中で取り組んでいる中で、合意形成が取りまとめられた区間から事業化をお願いしていくということですので、状況としましては金井島区間のほうが早く進む可能性があるかなというところで思っているところがございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

金井島のほうが先に実施される可能性が高いということでございますが、何せ北部地域活性化のためにはアクセス、安全な道路整備が不可欠だと思うのです。ですので、ぜひ、延滞の部分もよろしくお願ひしたいと思いますが、このような難題に町長は町のトップとしてどのように向かわれますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町にとって北部地域の活性化というのは、大変重要な位置づけで今、進めております。瀬戸屋敷周辺の整備も、農振地域ということで、なかなか建物の規制もクリアしながら県とのいろいろな折衝の中で今は進めておりますけれども、あわせて、今、言われたように、安全対策ということで県道の歩道整備も、これは土木にもお願ひを直接しておりますし、我々町としても、できるだけ早く地権者の合意を我々として先にとることによって県も整備しやすくなると伺っておりますので、できるだけ先頭に立って地権者の合意形成に向けてやりながら、道路整備もあわせて進めていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、町長には踏ん張っていただきたいと思います。

静岡県の掛川市の市長の有名な成功事例もありますが、ぜひ、そういうことも。その市長は、どうして難問に成功したかという、やはり相手の意向を真剣に聞き、誠意を持って当事者にお願ひに何回も行ったという、そういうことで相手の心に響いて課題が解決されたという話を聞いたことがございますので、開成町町民も心が温かいですので、ぜひ、町長が行かれれば心を動かされるのではないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あと、瀬戸屋敷のチラシの裏表紙にアクセス欄がございますが、小田急線から開成駅より瀬戸屋敷に行くには、徒歩で50分と記載されてございます。私が町民とか近隣の住民50人に聞き取りをしましたところ、全員が徒歩で50分も掛かるところには行かないよというお返事でございました。町では今年から巡回バスが2台になりましたが、開成駅から瀬戸屋敷までの直行便が朝、昼、夕と1日3便あれば町内外の方たちも瀬戸屋敷に行きたいと言われておりました。この点のお考えは、いかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長、答弁は5秒でお願いします。

○福祉課長（小宮好徳）

それでは、質問にお答えさせていただきます。

なかなか難しい話なのですけれども、対処したいと考えてございますので、よろしくお願ひしたいと思います。